



施設長 新年の挨拶

『介護一年生』

桑波田 景一郎

諮らざるも平成二十六年十一月より介護の仕事をする事になった。何れ自分も通る道であるし、その時になってからよりも、介護される者の在り方はどのようにあらねばならぬか、体験できれば幸せと考えての事であった。それと少子高齢化社会とあって、介護される人は増え逆に介護する人数は減少するであろう、そのような事態が起こりそうな時、自分ではどうするか？現在入所介護を受けておられる人々の姿に自分をダブらせてみながら平穏死をいかにするか考慮中である。人間はそれぞれ異なったDNAを持っている、その為寿命も異なり、永遠に若く生き続ける様には出来ていないし、老化してゆく過程で色々な病気に侵され命を落とすこともある。人は老衰死か病死（日本人の場合ガン死が一番多い）である。老衰死の場合いかに美しく平穏無事にこの世から立ち去る事を考える。病死の場合も同様である。以下の言葉は目下介護のイロハから勉強中の一年生の言い草とお受け取り下さい。

一番驚いたのは高齢者の病名の多いことであった。高血圧は無論、脑梗塞、糖尿病、パーキンソン病、骨折など一人で四〜五の病名の付いている人はザラ、これでは薬の量も大量であり飲むのも大変飲み忘れないだろうかと心配した。誤嚥性肺炎を起こし、胃腸より栄養食の人、経管栄養の人などチューブに繋がり物も言えない人、人間の尊厳性を否定するような光景には驚きを通り越して悲しくなった。若し私がこの様な事になったらどうするか恐らく拒否するつもりではあるが突然意思表示のできないようになつたときどうするか決めておかねばなるまい。まだまだ短期間の経験で物言つのはおこがましいけれど、高齢者のターミナルケアをどうするか討議検討されねばならない。然しながら私の勤めている施設の入所者は明るく暗い表情が無いのは如何した事なのか、多分施設の人々が明るく親切な心の持ち主だからだろうか。今日まで辛いことや悲しい、苦しい日々もあったに違いないのである。この事から対応の仕方については、苦を楽に変へようとする事もあつた。まだまだ介護一年生の勉強することは多いのである。

謹賀新年

本年も宜しく

お願い致します。



クリスマス会

クリスマスツリーやリースが飾られ、施設内はクリスマス一色の中の昨年十二月十七日に当施設にてクリスマス会を開催しました。

入所・通所のご利用者様はとんがり帽子をかぶり、クリスマスのお囃子を味わって頂きながらキャンドル隊の合唱で会が始まりました。職員扮するサンタクロースが登場すると、皆様拍手で喜ばれていました。サンタクロースからのプレゼントは、靴下またはマフラーで、皆さん大変喜ばれさっそく身に着けられていく方を目にします。クリスマス会で皆様を楽しみにしている出し物では、託児所の子ども達によるお遊戯や当施設職員もその一員である『洋妙会』の方々による日本舞踊がありました。可愛い子ども達のお遊戯ではお孫さんや曾孫さんを見るような眼差しで、また日本舞踊では迫力のある舞に見入っておられました。限られた時間ではありましたが、賑やかなクリスマス会となり、楽しい時間を過ごされました。



介護教室

十二月十七日に「感染症とその対策について」と題して介護教室を行いました。

乾燥も強くなりノロウイルス・インフルエンザ等の感染症が流行る時期になり今一度対策の仕方・予備知識を復習する意味で行いましたが、多くの方が参加して下さい、たいへん有意義な介護教室となりました。色々な感染症の把握、また後半からは手洗いなど今後に活かせるように体験もしてもらい、最後は自宅で嘔吐などあった時の対応を職員が実演しました。

自宅などでは早めの準備が大切であること、また何を準備しておくべきか、今後嘔吐などがあっても慌てず対応をしてもらうように話し合いました。まだまだ寒さも強くなり乾燥もひどく感染症の対応もしっかりしなければなりません。皆様にも手洗いうがいや習慣付けていただければ幸いです。

新人職員紹介



デイケア運転手
白井 仁

早く仕事の内容を覚えて安全運転で頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。